

2017/2/22

(日々雑感 28)



ある大きな企業に20年ほど勤めておりました。

心の病で、リストラ、降格、退職させられましたが、それでも、そこは企業年金制度があったお陰で、現在は月々2万円ほどの企業年金を受給することが出来ております。無論、厚生年金以外にですが、この2万円が結構有り難いのです。特に今のような生活をしていると、あると無いとでは大違いなのです。

しかし、もといたその大きな企業は、現在、その存続すら危ぶまれるような状態になっております。

それが何を意味するかというと、企業年金をその会社のOBに支払うことが出来なくなる可能性があるということです。

ぼくなど、最終職位が主任で2万円ですが、退職時に偉い地位にいた方は、相当額をもらっていると推察されます。それがある日を境になくなってしまいうけですから、今は、その恐怖におびえて、もう完全に「目が点」状態になっているのではないのでしょうか。

「会社を退職してしまえば、あとはどうだろうと知ったこっちゃない。年金さえもらえれば、関係ないよ」

と言う方が結構いらっしゃいますが、そんなことはないのです。企業年金にせよ、厚生年金にせよ、いた企業が退職後も存続しているからこそ払ってもらえるのですし、国、乃至は納税する若い人がいるからこそ受給できるからです。

だから、死ぬまで受給しようと思うなら、在職中からその企業が存続するような仕事をしなくてはならないはずですし、若い人たちをちゃんと育てる必要もなるはずだと思うのです。

すべて「回り回って」の話なのだと思うのです。

しかし、何が起るかわからない、一寸先が闇の現実で、退職後20年して元いた企業が存続しているやいなや等、分かりようはずもありません。ですから、企業年金など当てにしない方が良いでしょう。少なくともそれを担保に無謀な消費をすることは避け

た方が良いと思います。

企業年金はオマケくらいに思っていた方が安全です。

もし、それで足りないというなら、企業年金のあるような企業に勤められ得ていた方は、起業することをおすすめします。

その金額を得るために、既存企業に職を得たら、若い人たちが失職するか、新たに職を得られなくなるからです。そうすると、今度は厚生年金の存立基盤を脅かし、回り回って自分の実入りも減ってしまうからです。

だから、邪魔にならず、存立基盤も脅かさず、新たな雇用を生む可能性のある起業が一番妥当だと思ったりもして、起業しましたが、現時点では、鳴かず飛ばず、で苦勞しております。が、間違っていたとは思っておりません。

そう言えば、よく街頭で「年金カット反対、弱者いじめ、国の暴挙を許すまじ」

といったお訴えを耳にすることがあります。

なんかちょっと変かな？

と感じる時があります。

年金にせよ、給与にせよ、国や上司は、単にそれぞれ国民やお客様から戴いたお金を配分しているに過ぎないからです。その勤勞や実績乃至は功績に応じて。

もし、配分の仕方が間違っていて、それを特に国が直さないなら、あるいはもっと寄越せというなら、直接納税をしている若い人や現役世代の人に「もっとこちらに回すように言ってくれよ！！」と言うのが筋なような気がします。

しかし、若い人や現役世代のひとが、自分たちも払っている分に対してろくすっぽもらえもしないのに、おいそれと「そうだ！！そうだ！！」と言うとは思えないのです。

「あんた達がばくばく先食いするから、俺たちに回ってこないんだろ？ふざけんな！！」と怒鳴られるのが関の山のような気がします。

やはり回り回ってなのでしょう。

だから、現世代の我々は、次世代、後代のことを思っているいろいろやっておかないと、自分の現役時代のことだけ考えているようだと、最後には自分の生活、老後に跳ね返ってくることになるのだと思う次第なのです。

もういい加減そのからくり気づいて良いような気がするんですが、どうなのでしょう。